

CODE 海外災害援助市民センター  
2016 年度 事業計画

【1. 海外災害(地)への救援活動事業】

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県、パンジシール州
受益対象者の範囲及び予定人数	① ミールバチャコット地域の 4 村。人口は約 15,000 人、1560 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 537 世帯(2016 年 3 月時点)。 ② アフガニスタン雪崩災害救援プロジェクト パンジシール州の被災地の約 300 世帯。
実施内容	<p>①ぶどう畑再生支援事業</p> <p>●2016 年度の計画</p> <p>2003 年、288 世帯を対象にスタートしたコーポラティブシューラー(ぶどう協同組合)は、8 世帯増えて、2016 年 3 月現在、545 世帯である。2016 年度も引き続き、このミールバチャコット産の有機レーズンを日本での販売を行う。この支援プロジェクトを通じて、同地区を中心にぶどうの無農薬・有機栽培を浸透させる。そしてレーズンを活用して積極的にアフガニスタンの現状を発信し、これまで支援して下さった方々に呼びかけると共に新たな支援者の拡大に努力する。</p> <p>(1)ミールバチャコット産有機レーズンの日本での販売</p> <p>レーズンの輸入、販売を行う。これを契機として日本の支援者の関心をさらに高めることにより年間の現地 固定管理費(8400ドル)を賄い、自立へのサポートを継続する。</p> <p>2013 年 11 月からこれまでに輸入したレーズンの総量は 340kg。2015 年度は 80kg を輸入し、年度内にほぼ完売した。2016 年度も同様に 80kg を目標に輸入、販売し、アフガニスタンの現状を知ってもらう機会とする。</p> <p>* イベントでの販売</p> <p>今年度もコープこうべ、ワンワールドフェスタ for Youth、ユニセフのつどいなどのイベントでも販売も継続的に行う。またレーズン販売促進のキャンペーンを企画する。</p> <p>* 委託販売</p> <p>ケパス(フェアトレードのドライフルーツをネット販売している会社)の岡本玲子さんが 2015 年 8 月より定期的(毎月 30p～50p)に購入してくれているように、委託販売していただけたところを増やす。</p> <p>(2)食と国際協力の一環(れーずんの会)として、レーズンを食べながらアフガニスタンを 知ってもらう機会を作り、レーズン販売などにも協力してくれる人を増やす。</p>

	<p>* 第 22 回食と国際協力(第 6 回れーずんの会)の開催予定 * 2-(4)と重掲  2016 年 4 月 14 日(木) 講師:村井理事  「9・11 から 14 年 れーずんを食べながらアフガニスタンの今を考える」</p> <p>③ アフガニスタン雪崩災害救援プロジェクト  2015 年 2 月 24 日にアフガニスタン北東部で発生した、雪崩災害の被災者支援のためにカウンターパートのラフマンさんは、これまでに食糧支援や防災に関するワークショップを実施してきた。現在、クワの実栽培を通じた農家の再建プロジェクトを進めており、CODE に寄せられた寄付金で 5 月頃にはクワの実を約 40 本購入、提供をもってこの事業の終了とする。</p>
--	---

事業名	1-(2) 中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008 年 5 月 13 日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民
実施内容	<p>●2016 年度の計画:</p> <p>① 光明村老年活動センターの運営  2013 年に専門家によるワークショップを開催し、村民委員会が合作社(協同組合のようなもの)の設立する事に言及したが、村長が退任したことにより未だ実現していない。  2016 年度から光明村のある地方政府が、村周辺の観光開発を計画、実施する。これに伴って村民委員会も老年活動センターの「農家楽」を盛り上げていく予定である。  具体的には、センターの農家レストランとセンター前の釣堀の運営、村の南部にある洞窟、竹林、小川などの整備、開発を行う。CODE としてもこの動きを見ながら、前年度第 1 回日中 NGO ボランティア交流研修事業で日本の学生が植樹した十数本の桜が 2016 年春に開花したことや住民の自宅を農家民泊として開放する、などの現地住民の動きをサポートしていく。</p> <p>② CODE 2” (中国版 CODE のような組織)の構想  CODE2の構想は、提案者の四川復興管理学院の顧林生氏と協議を数度行って来たが、現時点では可能性が低いため、事項の 2015 年度実施した第 2 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業で連携した「NGO 備災センター」との連携強化をはかる。</p> <p>③ 現地 NGO ネットワークとの交流・研修  前年度は、将来の NGO を担う若者が現場で学ぶ機会を提供するために若者 6 名と共に四川大地震の被災地を訪問し、被災者や NGO、ボランティアと交流した。また、今後の日中の災害対応において連携を図るためにも中国四川省の NGO を日本に招聘し、神戸、新潟の被災地での学びの機会を持った。この 2 回の研修・交流事業によって国を超えた学びあいの重要性を認識した。下記のように今年度も研修・交流事業を実施する予定。</p>

現在、連携する四川の「NGO 備災センター」の張さんは、学校の安全教育に力を注いでいることから、日本の防災教育などとの学び合いを考えている。

上述のように2016年も引き続き四川の被災地の動向(光明村周辺の観光地化に伴う農家楽の運営など)を見守りながら、一方で四川の NGO との学び合いの機会を作っていく。

今後の予定

\* 四川の NGO とのシンポジウムの共同開催

張 国遠さん(NGO 備災センター事務局長)や高 圭滋さん(四川尚明公益発展研究センター主任)などと協働で「子ども」、「災害」をテーマにしたシンポジウムを開催する。現地からの要望で村井 CODE 理事などを派遣する予定である。

\* 第 3 回日中 NGO・ボランティア交流事業の実施

昨年度 2 回実施した事業を実施し、実際に CODE の支援する被災地のフィールドを歩き、現地の人に触れ、考える事で若者に大きな経験と学びをもたらした。昨年この事業をきっかけに神戸市外国語大学、関西学院大学の 2 名の学生は、その後も CODE のボランティアとして様々な協力をしていただいた。また、未来基金の第 1 号事業のフィリピンフィールド研修の申請者である神戸大学 2 年生の学生もこの事業を機に CODE にかかわるようになった。

今年度も 1 回程度、若者の四川省での研修を行い、CODE や未来基金にかかわる若者のきっかけづくりとする。\* 6 月 20 日からこの事業の下見、打合せのために訪中。

事業名	1-(3) ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日～継続中
実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範囲及び予定人数	レオガン周辺住民
実施内容	<p>●2016 年度の計画</p> <p>2016 年 4 月現在、農業技術学校(ETAL)の校舎は完成している。農業技術学校はすでに 2014 年 10 月より顧問の一人である Blot さんの職業訓練学校(CCFPL)の校舎を借りて、授業を開始している。現在 17 名の学生が農業を学んでいる。</p> <p>現地のシスターヨランダさんからの情報によると、5 月 15 日に落成式を開催するという。</p> <p>現地の状況を把握するためにも 2016 年 3 月に災害看護支援機構(2013 年度に農業技術学校の運営資金として 150 万円の寄付をいただいた)の理事と共に現地を訪問する予定であったが、大統領選挙に伴うデモなどで治安の悪化やジカ熱の感染者が出たことなどの理由で視察が延期になった。今後、時期を見て現地を訪問し、状況把握に努める。</p> <p>学校の運営資金(2 年間)は、シスター須藤のクリストロア修道女会に集まった地震への寄付金や災害看護支援機構の支援金などで賄う。</p> <p>今年度内に災害看護支援機構の方とハイチを訪問した際には、農業技術学校の状況</p>

	<p>を視察し、運営状況を把握する。</p> <p>また、2013年に事務所の家賃補助(3年間)をした日本ハイチ協会は、2015年度末に連絡があり、支援可能な他の団体などを紹介したが、運営不振で事務所を移転した。</p> <p>今後、Blot 神父、クリストロア修道女会などの顧問会や日本大使館、FutureCode、ハイチ友の会、日本ハイチ友好協会、木村さん(JEN スタッフ)、大瀧さん(大阪大学大学院)などと連携しながら ETAL の顧問委員会の一員として農業技術学校の運営を軌道に乗せる努力を行っていく。</p>
--	--

事業名	1-(4) 中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010年4月14日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	<p>●2016年度の計画:</p> <p>2014年8月に吉椿が現地を訪問し、ヤク銀行プロジェクトの状況を視察した。玉樹州称多県カトゥ村(ラブ村の近郊)の遊牧民家族に提供された37頭のヤクは、現在、53頭になった。カウンターパートのイアニさんからの報告では、2015年度は、母ヤクが8頭を出産したが、5頭が病気などで死亡したことで現在の約の総数は56頭である。</p> <p>現在での定期的に寄付をしてくれる方がいることもあり、今夏、現地を訪問するイアニさんのタイミングに合わせて、スタッフを派遣し、地元政府のこのプロジェクトへの協力の動向やヤクの生育状況、遊牧民の生活状況などを確認する。</p>

事業名	1-(5) インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト(通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	2006年5月27日～継続中
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約130名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村7000名、パンガン郡2万7000名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>集落では、CODE が支援した水道支管により、従来の水道料金より安くなった分を水組合の基金としている。住民は基金からの融資によってヤギ飼育を行っており、これが住民の間で広く利用されるようになってきている。仕組みとしては子ヤギを購入する資金を組合が融資し、育てて販売したときの利益を組合と飼育者で折半するというものである。このような住民の動きに関して現地キーパーソンを通して情報収集を続ける。</p> <p>2011年～2013年まで浅野教授の授業「海外研修」にスタッフが同行させていただいてきた。</p> <p>今後も、住民と深く関係を作っている神戸学院大学の浅野壽夫教授(CODE 正会員)やエコ・プロワットさんと連携し、この「ヤギ基金プロジェクト」を CODE は支援していく。</p>

事業名	1-(6) 東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011年3月14日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>●2016年度の計画:</p> <p>東日本大震災から5年を経た被災地の情報は、引き続き被災地 NGO 協働センターを通じて共有しつつ、CODE として海外の被災地との連携、交流の可能性を探っていく。</p> <p>CODE は、東北の5年目の厳しい状況を英語で海外に発信し、海外と東日本の被災地をつなぐ役割を担っていく。また HP の英語サイトも充実させていく。</p>

事業名(継続)	1-(7) フィリピン台風 Haiyan 救援プロジェクト
実施日時	2013年11月8日～継続中
実施場所	セブ島北部、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約1000人
実施内容	<p>●2016年度の計画</p> <p>2014年秋頃より現地の NGO ネットワークを通じてセブ北部の小島 Lipata 島にて船大工によるボート製作を行い、2015年2月にボートが提供され始め、これまでに Poooc、Ocoy、Aningan、Victoria、Polambato の5つの地域に7艘のボートを提供した。残りの5艘は、材料不足の影響もあり、時間がかかっているが、まもなく提供が完了する予定である。</p> <p>現在、カウンターパートである FIDEC が、現地の生活に合わせた住民教育(漁業の状況改善、心理ケア活動、持続可能な農業、漢方薬づくりなどの新産業、DRRM-災害リスク削減マネジメント、組織開発)を実施している。</p> <p>2015年度は下記の JICA の草の根技術協力事業「*4-(4)と重掲」を通じて、現地の NGO、アソシエーション(住民組織)と連携して助成の雇用、地位向上などに努力する。</p> <p>今後の計画</p> <p>① 漁業支援(ボートと漁網の提供)</p> <p>今後も NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」の加盟団体である SPFTC や FIDEC を通じて、引き続きボートを製作し、順次提供していく。</p> <p>また、上記の FIDEC の行う住民教育への支援も行いつつ、被災漁村のアソシエーションの動きを見守っていく。また、漁村の女性の地位向上のための雇用創出なども追求していく。</p>

	<p>② 北陸学院大学、JICA 北陸との草の根技術協力事業</p> <p>2016 年度から 3 年間、北陸学院大学と協働で JICA 新草の根支援事業として、CODE のフィールドであるセブ島、バンタヤン島で、石川県のフェアトレードや海産物加工の字術を活かして、現地の女性の雇用と権利・地位向上をめざしたプロジェクトを展開する。</p> <p>* 4- (4)と重掲</p> <p>* 2016 年 4 月 13 日 田中先生と打合せ</p> <p>* 2016 年 6 月 28 日～7 月 4 日</p> <p>JICA 北陸、北陸学院大学の田中先生とフィリピン訪問(吉椿) * 4- (4)と重掲</p> <p>③ 2016 年前期の未来基金のフィールド研修でアイセック神戸大学のメンバーがフィリピンでの研修(8 月を予定)が採用されたのでスタッフが対応していく。* 7- (3)と重掲</p>
--	--

事業名(継続)	1-(8) ネパール地震救援プロジェクト
実施日時	2015 年 4 月 25 日～継続中
実施場所	ネパール中部、東部のシェルパ族、ライ族の村など
受益対象者の範囲及び予定人数	ネパール地震の被災者 約 3500 人
実施内容	<p>●これまでの概要</p> <p>ネパールは、2015 年 4 月に 81 年ぶりの大地震に襲われた。CODE は直後より様々なルートを通じて情報収集を行い、これまでに 5 度のスタッフの現地派遣を行った。2015 年 11 月よりネパール東部のソルクンブ郡グデル村での「耐震住宅再建プロジェクト」が本格的に始動し、現在では、耐震のモデルハウスもほぼ完成し、その建設を通じて約 10 名の大工、石工が耐震について学んだ。現在、グデル村の一般住宅の再建も始まり、すでに 4 棟が完成している。</p> <p>●2016 年度の計画</p> <p>* 耐震住宅再建プロジェクト</p> <p>このプロジェクトのメインでもある耐震モデルハウスがまもなく完成するが、一般住宅の再建も同時に開始しており、大工・石工を 4 チームに分け、雨期の始まる 6 月までに 26 軒の一般住宅の再建をめざす。</p> <p>* 耐震住宅の普及</p> <p>先述の耐震住宅の再建の工程を記録したビデオ、写真などの資料を使って組石造住宅の耐震普及の DVD を製作し、将来的にネパール国内およびアジアの国々での耐震普及に活用する。また、グデル村と同じソルクンブ郡のパタンジェ村を支援する「夢広の会」(神戸市)からの耐震技術の協力要請が来ていることなどから、グデル村の大工・石工たち自身が、学んだ耐震技術を他の地域へ普及させていく。</p> <p>グデル村の若い大工の日本での技術研修も視野に入れながら、グデルシェルパコミュニティの中に大工塾(チーム)の立ち上げをめざす。</p> <p>現在、関西学院大学の野呂教授を通じて映像の専門家や学生との協働を検討してい</p>

	<p>る。</p> <p><b>* 中長期的支援</b></p> <p>グデル村の自立に向けた将来的なグリーンエコツーリズムなどの観光開発のための支援を考える。具体的には、日本の学生との交流を通じて地域の宝を再発見する村歩きや地域マップなどのワークショップなどの企画を実施する。またコープこうべの組合員さん向けのツアーの企画を検討する。( * 5/18 コープこうべ山添常勤理事のご協力により、コープツーリストの方とネパールへのツアーの協議を行った。)</p> <p><b>* その他</b></p> <p><b>* 保健医療支援</b></p> <p>CODE の建設するモデルハウスは村の唯一の医療施設であるヘルスポスト(診療所)の補助施設として活用される。このヘルスポストには若いスタッフが 2 名いるのみで、医師、看護師などの専門家は常駐していない事から慢性的な医薬品不足、不衛生、飲酒などの生活習慣病が蔓延している。基本的な衛生教育、健康管理などを指導する専門家を派遣する事で多くの傷病は軽減できると思われる。現在、災害看護支援機構を通じて専門家ボランティアの派遣を検討している。</p> <p><b>* チーム兵庫</b></p> <p>兵庫県立大学や人と防災未来センターなどを中心とした「チーム兵庫」が、震災後に調査・研究を行っている。CODE もこれまでミーティング、報告会などに参加し、状況共有を行って来た。今後も必要に応じて参加する。</p> <p>また、兵庫県立大学の宮本先生が、CODE とのコラボで学生のネパールでのフィールド研修として、CODE 未来基金を活用して検討している。</p> <p>* 5 月 10 日チームひょうご設立総会・報告会で報告(吉椿) * 6-(2)に重掲</p>
--	--

事業名(継続)	1-(9) エクアドル地震救援プロジェクト
実施日時	2016 年 4 月 17 日(日本時間)～継続中
実施場所	エクアドル北西部ポルトビエホ、マンタ、ペデルナレス、エスメラルダス
受益対象者の範囲及び予定人数	エクアドル地震のエスメラルダスの被災者 約 387 世帯
実施内容	<p>●地震の概要</p> <p>2016 年 4 月 17 日、南米エクアドルで M7.8 の地震が発生し、死者 661 名、負傷者 7000 名以上の被害を出し、総被災者は約 72 万人にのぼる。現在も 2 万 9000 名以上が避難生活を送っている。日本では、熊本地震(4 月 14 日、16 日)と時期が重なったことから、ほとんど注目されていないのが現状であるが、CODE の新旧の支援者のご協力により、これまでに約 11 万円の寄付が寄せられた。</p> <p>CODE は、地震直後、メキシコのクワテモックさんやチリ地震(2010 年)支援として実施した「チリー高知交流事業」の際に日本に招聘した Isabel さんにコンタクトをとり、情報収集を行ってきた。また、東日本大震災でつながった日本人ボランティアの方を通じて現地情報</p>

	<p>やスペイン語メディアの情報の翻訳も行って来た。</p> <p>チリの Isabel さんの紹介により、エクアドルの Doris さん(開発のNGO、HIVOS のスタッフ)経由で災害救援を行っているINGO のエクアドル支部である「VECO-ANDINO」とつながった。「VECO-ANDINO」は、被災地エスメラルダス(被災者 17907 人)の「UOPROCAE」というカカオ栽培の農業団体と連携して、カカオ農家の支援を展開している。活動は、地震によってきれいな水へのアクセスが困難になった農家に対して水の濾過キットの提供、地震による離農を防ぐために、カカオ農家へのより近代的な剪定や栽培の農具の提供などを行っている。</p> <p>CODE は、今後、この「VECO-ANDINO」通じて現地のカカオ農家の生業支援を行う予定である。</p>
--	--

## 【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	<p>現在、事務局は吉椿、上野の 2 名体制(村井理事、細川さんを含めると 4 名)で、2016 年度前期は、アルバイトやボランティア、後期は未来基金のインターン(見込み)などの力を借りながら事務局を運営していく。</p> <p>現在、スタッフ上野の person 費は未来基金から拠出しており、上野を未来基金の専従スタッフとすることで未来基金をより一層盛り上げ、CODE の活動に参加する若者の増加をはかる。</p>

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	<p>* 村井理事による寺子屋セミナー(2 回程度)</p> <p>若いスタッフやボランティア、未来基金で CODE に参加する若者を対象に CODE の理念、活動などを伝えていただく。7 月以降で毎月 1 回、計 2 回を予定</p>

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲	学生や若者数十名



圏及び予定人数	
実施内容	月1回行っている「食と国際協力」を通じてボランティアや外部の人が集う場を今年度も継続していく。また、未来基金をきっかけに若者が CODE にかかわる場を今後も積極的に作っていく。

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	<p>2014年3月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月1回、第3木曜日に開催しており、これまでに23回行った。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらい、災害が発生した場合はともに協力し合うことがこの企画のねらいである。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODEを知ってもらう機会にすると同時に、その中からCODEに積極的に関わる若者を発掘していく。</p> <p>* 今年度の開催日程と内容</p> <p>第22回食と国際協力(第6回れーずんの会) (村井理事) (2016年4月14日) 「9・11から14年 れーずんを食べながらアフガニスタンの今を考える」(終了) * 1-(1)と重掲</p> <p>第23回食と国際協力(ネパール) 米川アンジュさん (2016年5月19日) 「ネパールのハニーハンター～大地に木を植え、心に花を咲かせる～」(終了)</p> <p>今後:</p> <p>第24回食と国際協力(バングラデシュ) 斉藤容子さん (2016年6月16日) 第25回食と国際協力(中国・雲南) 吉椿雅道 (2016年7月21日) その他の予定・・・イラン(奥さん・ナヒドさん夫妻)、台湾(李さん)、ネパール(ラクパさん)など</p>

### 【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002年からの継続事業)
実施場所	SOHO形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb(UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト)

	<p>やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。</p> <p>今年度も、災害発生時の情報発信の際などに引き続き活用していく。今年度も翻訳ボランティアさんの力を借りて、英語発信を充実させる。</p>
--	--

#### 【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学
実施日時	9月から1月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生 40名
実施内容	<p>① 「現代社会学部」の後期授業企画および講師派遣</p> <p>CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、9年目となる今年度も継続して神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱの講師派遣を下記のスケジュールと講師陣で実施する。受講人数は約40名。</p> <p>《内容》</p> <p>9/20(火) 第1回 ガイダンス(村井理事)</p> <p>9/27(火) 第2回 阪神淡路大震災20年とボランティア(村井理事)</p> <p>10/4(火) 第3回 東日本大震災など国内災害とボランティア(村井理事)</p> <p>10/11(火) 第4回 ボランティアでもできる心のケア(村井理事)</p> <p>10/18(火) 第5回 CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について (吉椿)</p> <p>10/25(火) 第6回 フィリピン台風の復興から学ぶ(吉椿、上野)</p> <p>11/1(火) 第7回 四川大地震から学ぶ民際交流(吉椿)</p> <p>11/8(火) 第8回 ハイチ地震から学ぶ(吉椿)</p> <p>11/15(火) 第9回 アフガニスタンと開発援助(村井理事)</p> <p>11/22(火) 第10回 ネパール地震後の再建から現地の暮らしと自然との共生を学ぶ (村井理事、上野)</p> <p>11/29(火) 第11回 東日本大震災とジェンダー(斉藤容子さん)</p> <p>12/6(火) 第12回 災害時における地域力と備えの大切さについて(織田峰彦さん)</p> <p>12/13(火) 第13回 農業と持続可能な社会(本野一郎さん)</p> <p>12/20(火) 第14回 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠理事)</p> <p>1/17(木) 第15回 まとめ(村井理事)</p> <p>その他の授業</p> <p>5月7日(土) 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿)</p> <p>② インターンシップ受け入れ</p> <p>昨年同様に9月12日～16日(5日間)にインターン学生2～3名を受け入れる。</p>

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》神戸女子大学
実施日時	5月から7月まで、毎週金曜日第2限
実施場所	神戸女子大学
受益対象者の範囲及び予定人数	神戸国際教養学科の学生40名
実施内容	<p>昨年度から神戸女子大学神戸国際教養学科で村井理事が講師として授業を行っている。今年度も引き続き以下のような内容で授業を行う。</p> <p>5/13(金) ボランティアの歴史 ～「セツルメント運動」から災害救援へ～  5/20(金) CODE 海外災害援助市民センターの活動について  ～困った時はお互い様・一人ひとりに寄り添う～  5/27(金) 災害と貧困 ～貧困脱出と災害復興との関係～  6/3(金) 異文化理解と支援 ～宗教や伝統文化、生活習慣の違いを理解する～  6/10(金) 中国四川省地震と支援のあり方 ～人と人はつながる～  6/17(金) 女性の生活向上支援と自立 ～教育のもたらず意義～  6/24(金) 長期にわたる戦禍・紛争後のアフガニスタン  ～人為災害と自然災害と戦う人々～  7/1(金) 紛争後の支援から12年、アフガニスタンの今 ～平和構築への課題～  7/8(金) 保護とエンパワーメント  7/15(金) 新たなチャレンジ ～ネパール地震支援プロジェクトから学ぶ～</p>

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 講師派遣  前年度と同様、派遣依頼があれば行う。  * 今年度の予定  ・2017年1月 龍谷大学国際特別講義(吉椿)</p> <p>② 関西 NGO 協議会提言専門委員会に委員として参加(村井理事)</p> <p>③ その他必要に応じて行う。</p>

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》北陸学院大学(JICA 草の根技術協力事業)《新規》
実施日時	2016年4月～2018年3月

実施場所	フィリピンセブ島、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約 1000 人
実施内容	<p>JICA 草の根技術協力事業(新・草の根協力支援型)として、JICA 北陸と北陸学院大学とのコラボで CODE のフィリピン台風の復興支援フィールドであるセブ島、バンタヤン島で行う。具体的には、被災地の農漁村の女性を対象に石川県内のフェアトレードや海産物加工の技術など活用して雇用を創出する。そしてこの事業による女性の地位と発言権の向上をめざす。</p> <p>* 2016 年 6 月 28 日～7 月 4 日</p> <p>JICA 北陸、北陸学院大学の田中先生とフィリピン訪問(吉椿)*1-(7)と重掲</p>

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加  加盟団体である CODE も必要に応じて参加する。  2016 年 2 月、3 月のファンドレイジング研修に参加(吉椿、上野、頼政)</p> <p>* 今年度の予定  5 月 21 日 第 15 回定期総会に出席(吉椿)  5 月 27 日 2016 年度関西地域 NGO 助成プログラム募集前説明会に参加(上野)  12 月 ワンワールド・フェスティバル for Youth に参加(上野)  (未定) TELL-NET フォーラム  今後の開催状況を見て参加する。</p> <p>② コープこうべとの連携  コープこうべが実施している地区の勉強会、報告会への講師派遣を引き続き行う。  また、CODE の支援する被災地(四川、フィリピン、ネパールなど)へのスタディーツアーの企画なども検討する。</p> <p>(今年度の予定)  5 月 18 日 ネパールスタディーツアー打合せ(山添理事、村井理事、吉椿)  * 1-(8)と重掲  6 月 15 日 コープこうべ第 96 期通常総代会に出席(吉椿)  10 月頃 ネパールスタディーツアー(コープこうべ組合員対象に)</p> <p>③ 若者の団体とのネットワーク</p>

	<p>災害時などに CODE と連携していただく若者の団体(ワカモノチカラプロジェクト、神戸大学 PEPUP、アイセック神戸大学委員会、NPO まなびと、神戸大学学生救援隊など)との関係を深めていく。</p> <p>8月に未来基金のフィールド研修事業でフィリピンに行く学生たちは、アイセック神戸大学委員会にメンバーである。</p> <p>④ JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センターなどのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。</p>
--	--

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① フィリピン台風災害(2013年)の被災地、セブ島で活動する NGO ネットワーク、ABAG CENTRAL VISAYAS との連携を JICA 草の根技術協力事業を通じて深めていく。</p> <p>② 2015年3月、6月に実施した日中 NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに四川の NGO、四川尚明公益発展研究センターや NGO 備災センターとの関係を深めてきており、今後、両国の災害救援などで連携していく。 *今年度の予定:「災害」と「子ども」をテーマにしたシンポジウムを共同開催する。</p> <p>③ ネパール地震救援プロジェクトを通じて出会ったグデルシェルパコミュニティの中に組織する予定の大工塾(チーム)や若者たちとの連携を深め、ネパールの耐震技術の普及を進めていく。</p>

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>① CODE 理事による寺子屋(3回) 今年度も芹田代表、室崎副代表、松本理事に、それぞれ CODE の理念、NGO、復興、市民社会などをテーマに次世代に伝えていただく。</p> <p>② 一昨年度の室崎副代表理事の寺子屋 4回シリーズの講義録を小冊子にする。学生アルバイトの協力で作業を進めていく。</p>

	<p>寺子屋の開催状況は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回「阪神・淡路大震災からの学び」(2014年7月25日) 参加人数:20人</li> <li>・第2回「国内の災害復興からの学び」(2014年8月22日) 参加人数:19人</li> <li>・第3回「海外の災害復興からの学び」(2014年9月26日) 参加人数:20人</li> <li>・第4回「東日本大震災からの学びとまとめ」(2014年10月31日)参加人数:39人</li> </ul>
--	--

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>現時点(2016年5月末)での会員の状況:</p> <p>正会員 :24(団体3、個人21)</p> <p>賛助会員:96(団体3、個人93、うち新規25) 計:120名・団体 (*2014年度は92名)</p> <p>2016年2月、3月に参加したファンドレイジング研修(主催:関西 NGO 協議会)を受けて、現在、事務局で会員、寄付者の増加をはかるために、過去の会員、寄付者の名簿の整理、分析を行っている。</p> <p>また、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」(3/14放送)を見た方々から、寄付が252件(クレジット88件、振替156件、Cash8件)、約584万8272円(うち未来基金143万円)(5月末時点)あり、そのうち賛助会員になったケースが25件あった。</p> <p>今年度の計画:</p> <p>先述のNHKの番組を機にリーフレットをカラーでリニューアルし、CODEの会員の継続や新規会員、継続的な寄付者、支援者の獲得に向けて、丁寧なレスポンスや情報発信を行っていく。また新規の会員、寄付者に未来基金を知っていただく工夫を行う。</p> <p>具体的には、既存のデータ整理と分析と戦略(過去の寄付者、支援者の年代、地域、寄付の動向など)を検討しつつ、新規寄付者へのCODEレターの増刷と発送、そして、寄付および会費の振込方法として、マンスリー寄付(費用5000円)や自動引き落としなどのシステムを導入する。</p> <p>2015年度もFacebookなどのSNSを活用して、gooddo(寄付サイト)でのワンクリック募金にアクセスしてもらうようにする。</p> <p>* gooddoでのワンクリック募金実績:</p> <p>2014年度 約22000円</p> <p>2015年度 約57000円</p> <p>また、2015年度より始めた「ソーシャルアクションリング」のバナー広告を今年度も継続する。(年間15000円の広告収入)</p>

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 当団体主催の報告会、講義の予定</p> <p>*「食と国際協力」の場などを活用し、これまでの救援プロジェクトの簡単な報告を行う。 * コープこうべ組合さん向けの報告会(四川、フィリピン、ネパールなど)</p> <p>・講師派遣:引き続き行う。</p> <p>* 今年度の予定</p> <p>4月23日 ネパール地震1周年シンポジウム(上智大学、JPF ネパール支援ワーキンググループ主催)でパネリスト(吉椿)</p> <p>5月7日 神戸学院大学「社会貢献学入門」で講義(吉椿) *4-(1)と重掲</p> <p>5月10日 ネパール大地震復興支援チームひょうご設立総会・報告会で報告(吉椿) *1-(8)と重掲</p> <p>5月13日~7月15日 神戸女子大学「国際ボランティア論」で講義(村井理事) *4-(2)と重掲</p> <p>5月28日 たつの市御津ボランティア交流会で講演(吉椿)</p> <p>6月18日 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義(吉椿)</p> <p>7月8日 関西学院大学シンポジウムに登壇(村井理事、吉椿)</p> <p>7月26日 神戸大学総合教育科目「阪神・淡路大震災 A.B」で講義(吉椿)</p> <p>9月20日~1月17日 神戸学院大学「社会防災特別講義Ⅱ」で講義 (村井理事、吉椿、上野) *4-(1)と重掲</p> <p>11月 兵庫県立大学「災害と人と健康」で講義(吉椿)</p> <p>1月 龍谷大学「国際特別講義」で講義の予定(吉椿) 神戸工科高校での講義の予定(上野)</p> <p>その他の予定: 西脇工業高校、灘高校などでの講義(吉椿)</p>

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年3回発行 メーリングリスト、インターネットは随時発信(積極的にツイッターの利用を行う)
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲	・機関紙は約700通

圏及び予定人数	(2016年4月号は、新規の寄付者、会員など向けに約850通に増刷) ・インターネットは不特定多数
実施内容	・機関誌:4月、7月(総会報告のため)、12月(年末寄付募集のため)に発行予定。 ・メーリングリスト:逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、FACEBOOK:逐次発信 ・ホームページ:2014年ボランティアさんの協力でリニューアルを行った。英語版もボランティアさんによって逐次、翻訳していただいている。

【7. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立に向けて
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	CODE AID の具体化に向けて取り組む。

事業名	7-(3) CODE 未来基金
実施日時	2015年4月1日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	<p>●今年度の計画</p> <p>これまでに CODE レターや SNS を使って「未来基金」の発信を行ってきたが、下記のように13名、約59万円の寄付に留まっており、CODE 未来基金がまだまだ認知されていない状況にある。</p> <p>今年度は、事務局内でのミーティングを数度開き、寄付者、サポーターの獲得を第一目標に戦略的な計画をたてる。また、未来基金の独自のレターの発行、第1号フィールド研修事業の学生の実績、感想などを発信すると同時に、寄付者、サポーターの獲得をめざす。そして未来基金の必要性を社会にアピールする努力をおこなう。</p> <p>また、定期的に未来基金への寄付を募集するためのイベント(ファンドレージングパーティーなど)やネパールへのスタディツアーの収益のキックバックなどを検討していく。</p> <p>その他、8月に実施する未来基金第1号フィールド研修や9月の中国・四川省での交流研修など CODE が若者と育ち合っている姿をメディアなどを通じて積極的にアピールしていく。</p>



現在の寄付の状況:58万9417円(約10名、うちサポーター3名)  
+50万円(斉藤容子さんの奨学金返済)  
+143万円(5月末時点 プロフェッショナル募金キャンペーン)  
合計:251万9417円

今後の動き:

- ・4月1日～ 2016年度後期プログラムの募集開始(6月末まで)
  - ・4月 未来基金に関する事務局ミーティング(村井理事、吉椿、上野)
  - ・8月 第1号事業(フィールド研修部門)「フィリピンフィールド研修」の実施  
(神戸大学 宮津さん他) \*1-(7)と重掲
  - ・9月 ファンドレイジングイベント(第1号事業の報告会を兼ねて)の開催
  - ・10月 2017年度前期プログラムの募集開始(12月末まで)
- その他、
- ・榛木理事と中小企業のCSR部門を訪問。
  - ・HP、Facebookでの広報の充実